

聖霊によりてみごもられ

切替英雄

2018年4月13日

一昨春秋、遠軽教会（日本キリスト教会）の週報で「日本キリスト教会信仰の告白」を初めて知る機会に恵まれた。その中に次のような一節があった。

主は、聖霊によりてみごもられ、処女マリヤより生まれ、

「みごもる」は「妊娠する」「懐妊する」ないし「身をひそめて隠れこもる」と辞書に説明されている（広辞苑）。「みごもる」とそれに関連する例として、マタイ伝第1章とルカ伝第1章に次のものが見つかる（以下、新約聖書からの引用は「新約聖書改訳」（1917/1950）に基づく。ただし、旧漢字は現行の漢字に改めた）。

その母マリヤ、ヨセフと許嫁したるのみにて、未だ偕にならざりしに、聖霊によりて 孕り、その孕りたること顕れたり。（マタイ 1:18）

その（マリヤの）胎に宿る者は聖霊によるなり。（マタイ 1:20）

視よ、処女みごもりて子を生まん。（マタイ 1:23）

此の後その妻エリサベツは孕りて、五月ほど隠れをりて言ふ（ルカ 1:24）

視よ、なんぢ（マリヤ）孕りて男子を生まん。（ルカ 1:31）

視よ、なんぢ（マリヤ）の親族のエリサベツも年老いたれど、男子を孕めり。石女といはれたる者なるに、今は孕りてはや六月になりぬ。（ルカ 1:36）

以上の例から「みごもる」が他動詞「はらむ」（男子を孕めり）に対して自動詞であることが分かる。

上掲の一節は甚だ妙なことになる。マリヤが懐妊したのは疑いようもないのに、イエスが懐妊したと読み取られる。

「みごもられ」は、「みごもる」が尊敬の助動詞をとった「みごもらる」の連用形だ。これに代えて、連体形「みごもらるる」を用い、同時に読点を取り除き、

主は、聖霊によりてみごもらるる 処女マリヤより生まれ、

あるいは、完了の助動詞「たり」の連体形「たる」を「みごもられ」に接続させ、

主は、聖霊によりてみごもられたる 処女マリヤより生まれ、

とすると、疑いもなくマリヤが懐妊したことが示される。しかし、文語訳ではマリヤに尊敬表現を当てていないから、「信仰の告白」もそれに従って、次のように直截に書くべきだったと思う。

主は、聖霊によりてみごもる 処女マリヤより生まれ、

あるいは、

主は、聖霊によりてみごもりたる 処女マリヤより生まれ、